

-
2. 公共交通機関の施設
 3. 道路

6. 乗降場

施行規則
別表第2 [2の表 公共交通機関の施設に関する整備基準] (6項 乗降場)

公共交通機関の施設

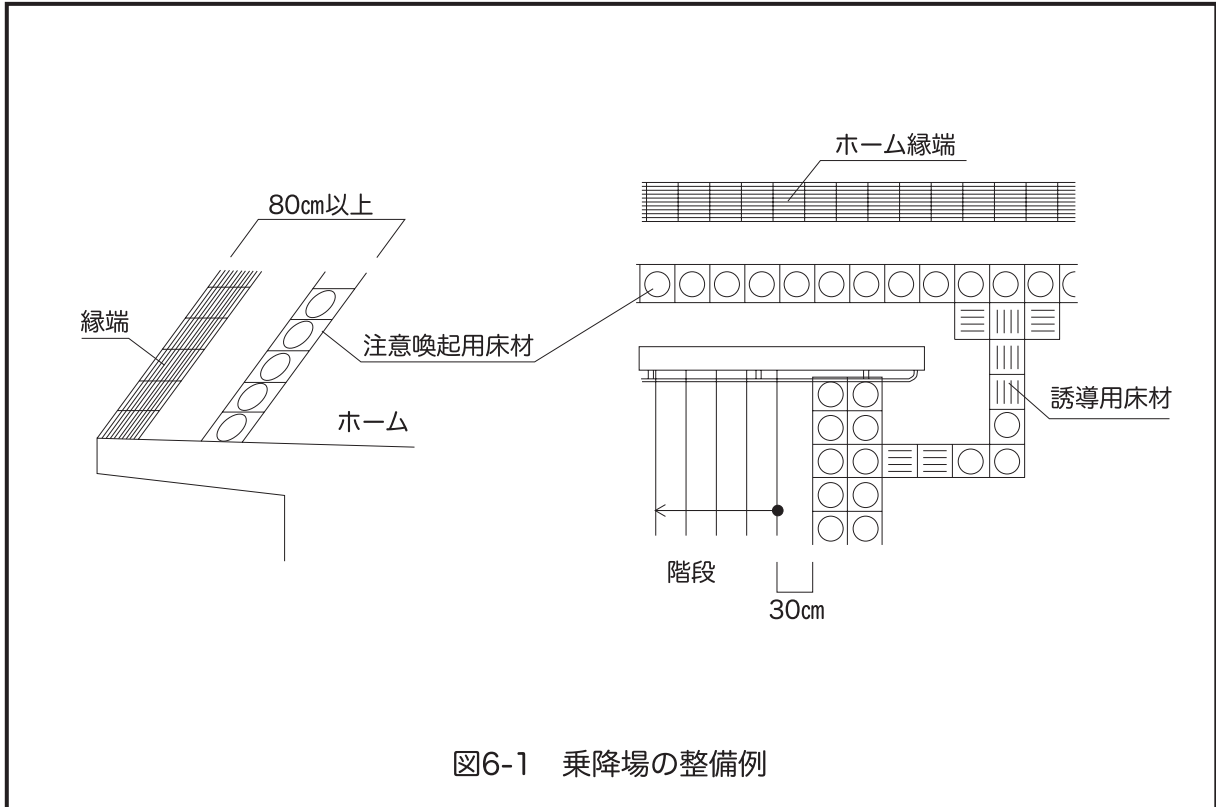


図6-1 乗降場の整備例

11. 券売機

施行規則
別表第2 [2の表 公共交通機関の施設に関する整備基準] (11項 券売機)

公共交通機関の施設

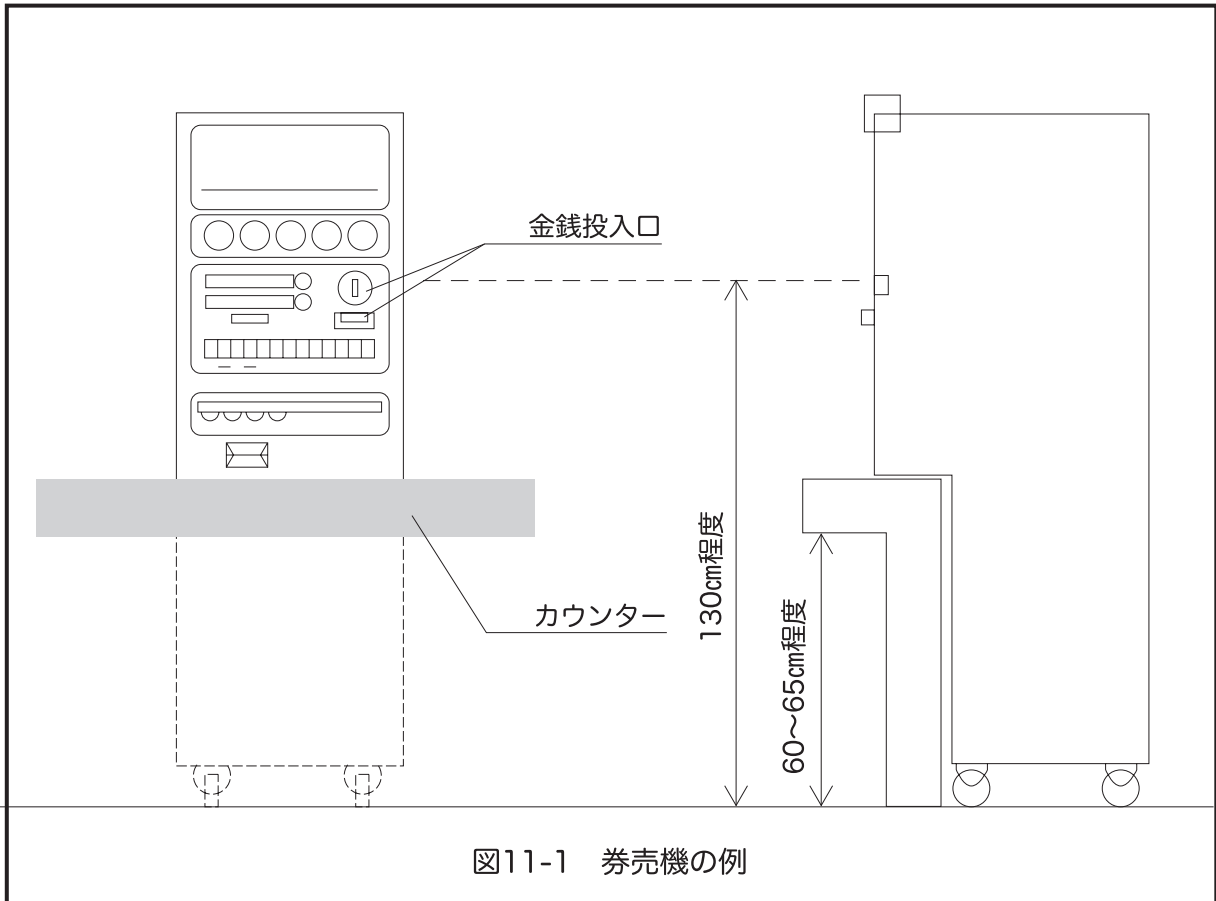


図11-1 券売機の例

3-2 誘導用・注意喚起用床材

視覚障害者や高齢者などが、危険回避や方向を知るうえで、注意喚起用床材(点状ブロック)や誘導用床材(線状ブロック)などは情報不足を補う有効な手段である。様々な状況を考慮し視覚障害者や高齢者などを、わかりやすく安全に誘導するために、形状や色づかいなどに配慮することが必要である。

1.1 形状等

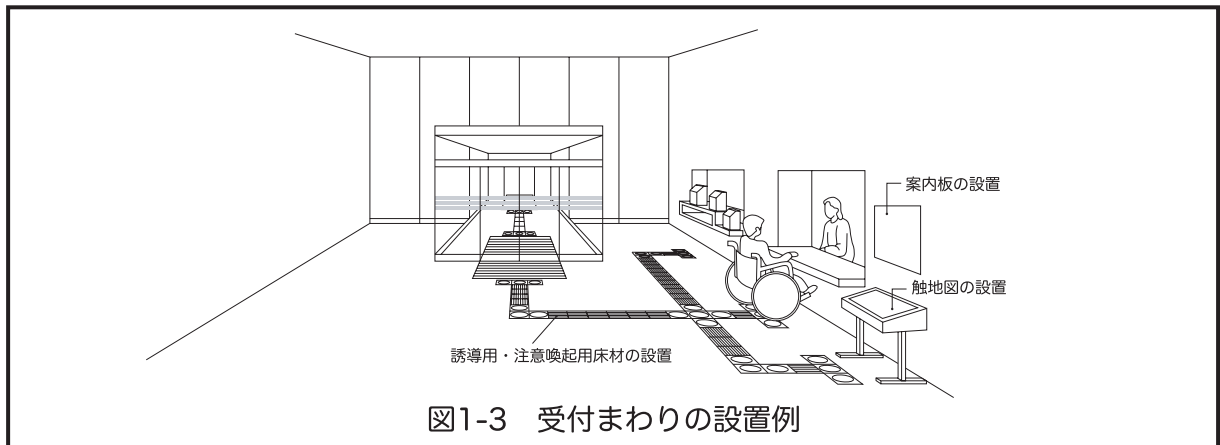
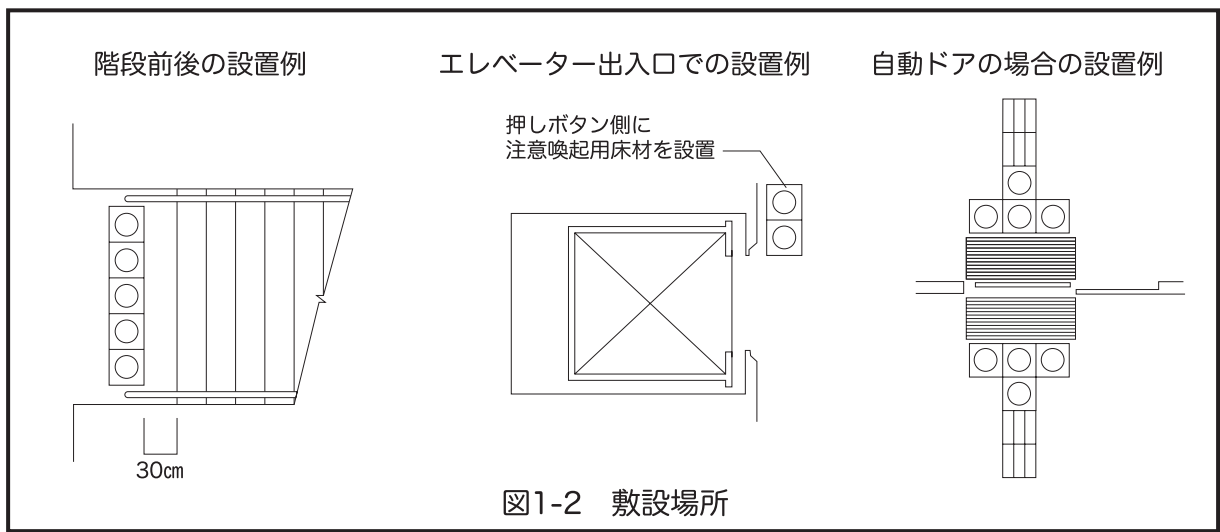
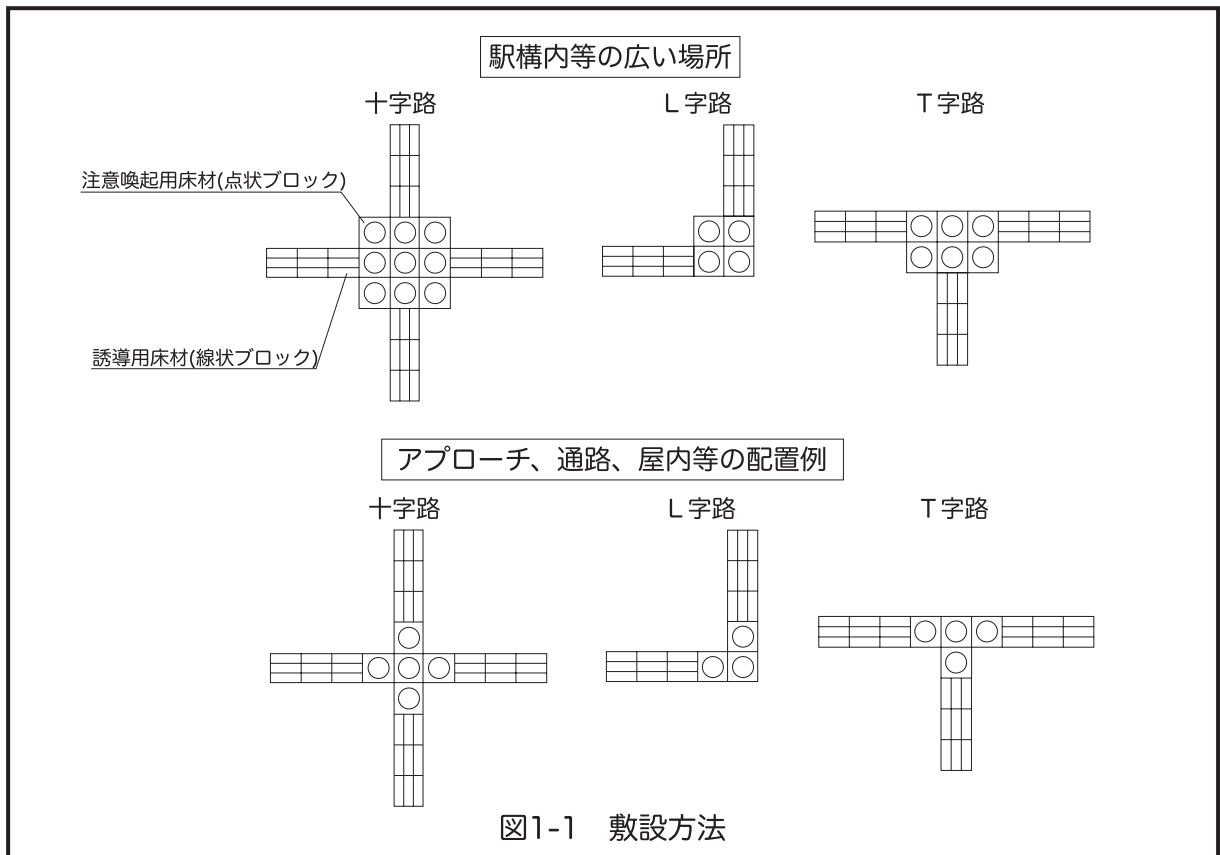
- 日本工業規格(JIS)化されたものを使用する。(P155 図1-6参照)
- 注意喚起用床材は、表面に点状の突起をつけた床材とし、誘導用床材は、表面に線状の突起をつけた床材とする。
- 誘導用・注意喚起用床材は、触感覚による識別が容易なものとする。
- 注意喚起用床材は、視覚障害者に注意すべき位置や誘導対象建築物等の位置を案内する場合に用い、誘導用床材は、通路等の方向を案内する場合に用いるようにする。
- 十分な強度を有し、ぬれても滑りにくい材質で、歩行性、耐久性、耐磨耗性にも優れたものとする。
- 誘導用・注意喚起用床材と周囲の床材の色は、明度や彩度差・コントラストのはっきりしたもの(P154 図1-5参照)とし、視覚障害者等が識別しやすい黄色、だいだい色等を基本とする。
- 誘導用・注意喚起用床材を敷設する部分の周辺床材は、誘導用・注意喚起用床材の凹凸が触感覚で確認しやすいように、できるだけ平らなものを用いる。

1.2 敷設方法

- 過剰な敷設はかえって混乱をまねくので、最も基本となる動線を熟慮し、明快な経路とする。
- 原則として湾曲しないように直線的に敷設し、曲がる部分は直角に配置する。(P153 図1-1参照)
- 誘導用床材は、線状突起の方向を平行にして、連続して敷設する。
- 誘導用・注意喚起用床材を一連で敷設する場合は、視覚障害者の混乱を防ぐためにできるだけ同寸法、同材質の床材を使用する。
- 肢体障害者や車いす利用者などの通行の支障とならないよう、過剰な敷設は避ける。

1.3 敷設場所

- 誘導用・注意喚起用床材の敷設は、それぞれの項目(出入口、敷地内通路、アプローチ、廊下等、スロープ、階段、歩道等、園路、プラットホーム・バスターミナル・乗船場)に定めるところによる。(P153 図1-2、P154 図1-4参照)



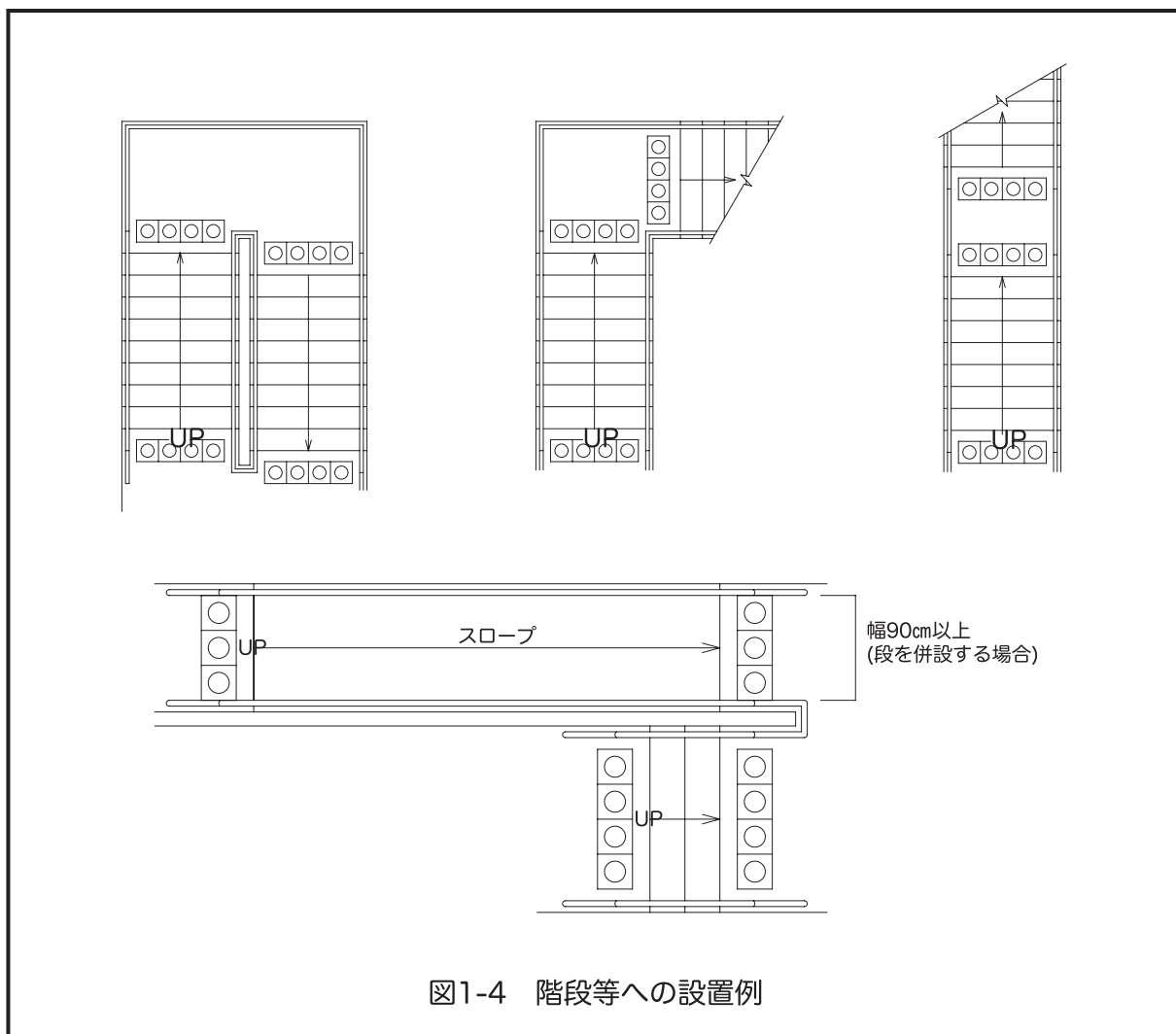
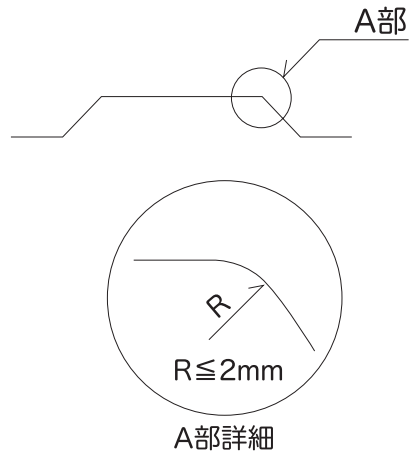
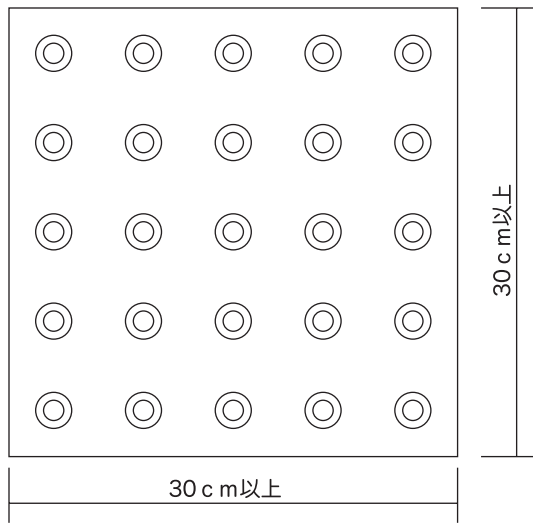


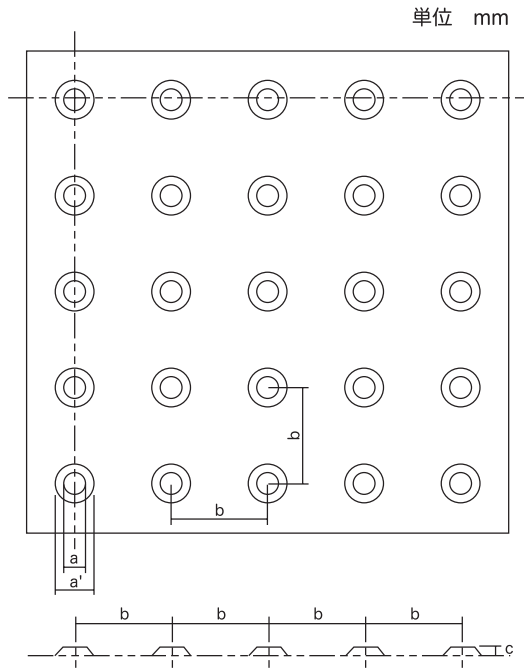
図1-4 階段等への設置例



図1-5 誘導用・注意喚起用床材のコントラストの工夫

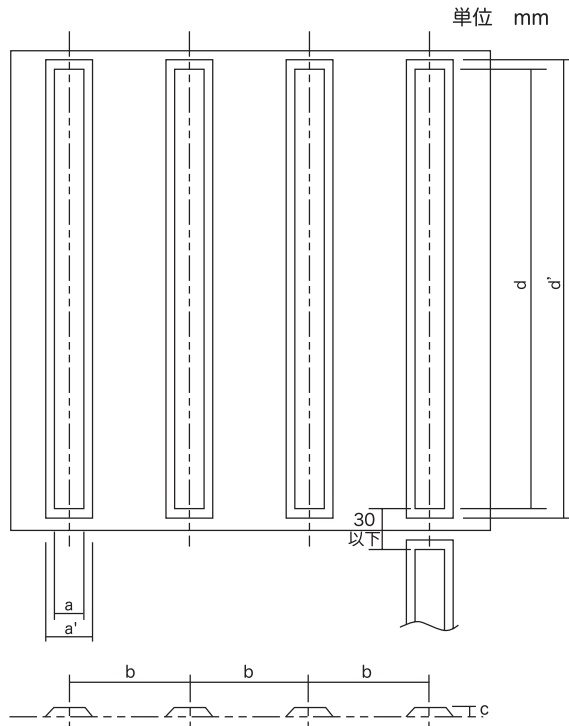


点状突起の数：25(5×5)を下限とする



記号	寸法	許容差
a	12	+1.5
a'	a+10	0
b	55~60°	
c	5	+1 0

この寸法範囲でブロック等の大きさに応じて一つの寸法を設定する。



記号	寸法	許容差
a	17	+1.5
a'	a+10	0
b	75	
c	5	+1 0
d	270以上	
d'	a+10	

線状突起の本数は4本を下限とし、ブロック等の大きさに応じて増やす。

図1-6 誘導用・注意喚起用床材の形状・寸法及び配列(JIS T9251)

3-3 車いす使用者及びつえ使用者の基本寸法

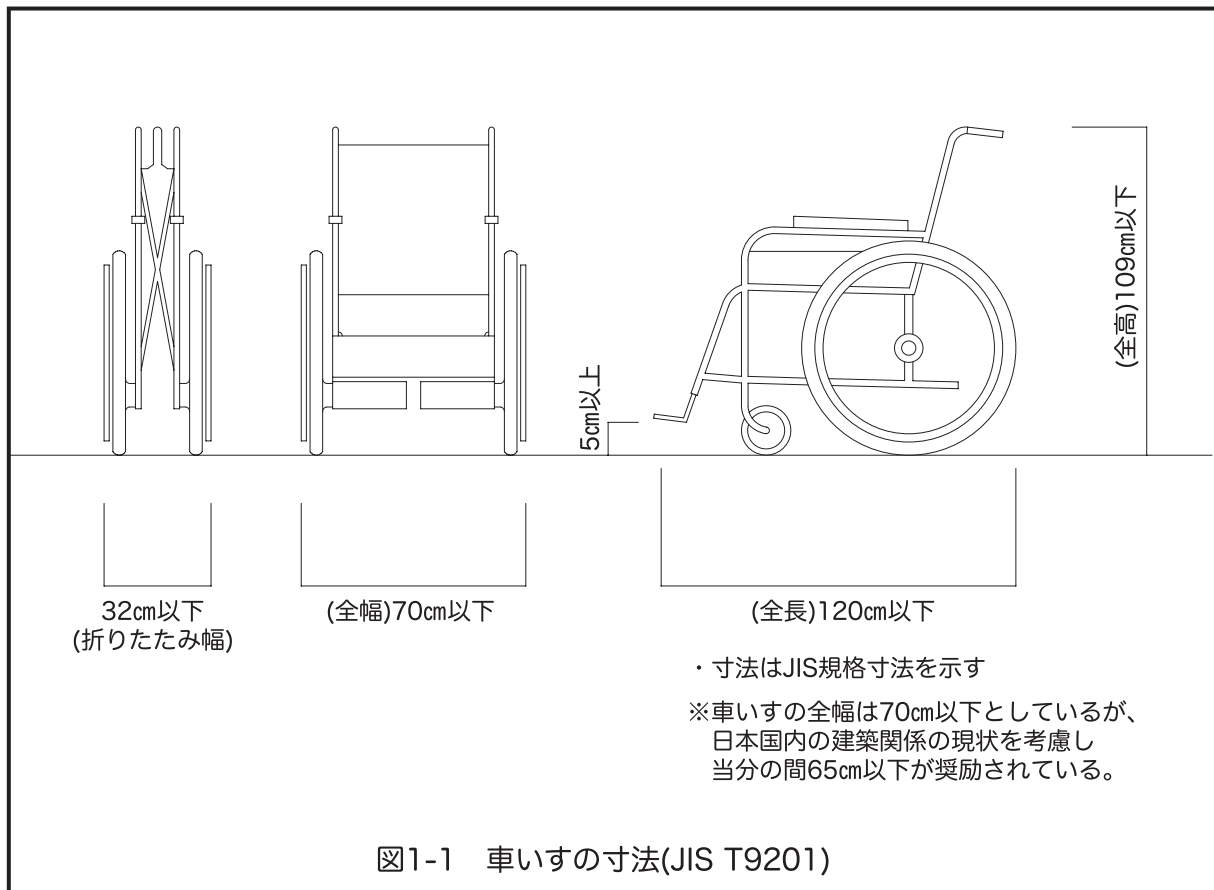
建築物の屋外、屋内の各部分で身体障害者の利用を配慮した設計を行う際に参考となる基本動作寸法について紹介する。

ここでの対象は、車いす使用者、つえ使用者とした。この二者は一般の建築計画で考えている人の動作寸法では不十分なこと、行動条件が補助具の性能によって大きく左右されるためである。

1.1 車いすの寸法

車いすの形状・寸法はJIS規格(JIST9201)により定められている。

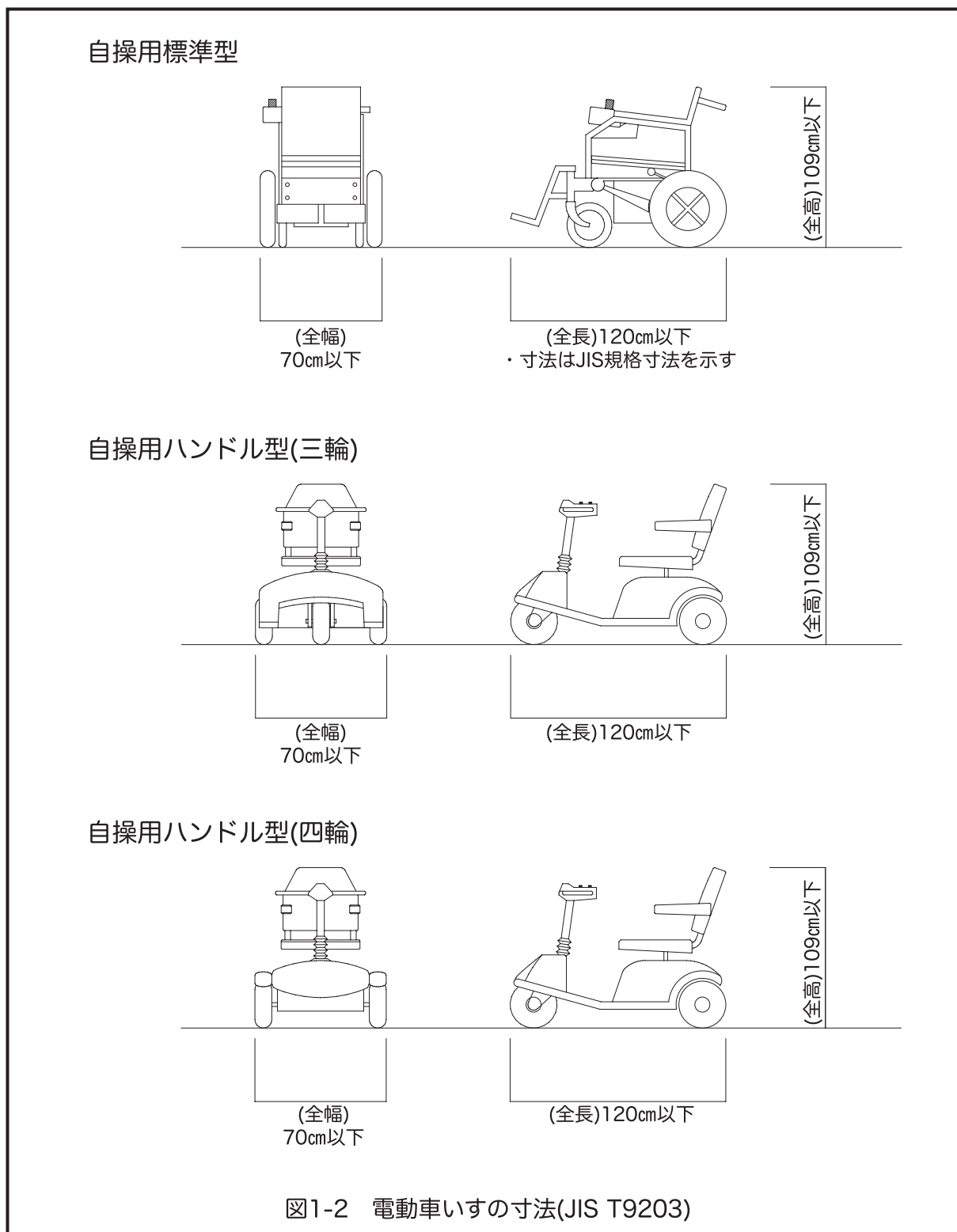
車いすの形式は手動の大型、中型、小型の3タイプがある。この他に、スポーツ型、和室用等がある。なお、平均的な重量は10～15kg程度である。



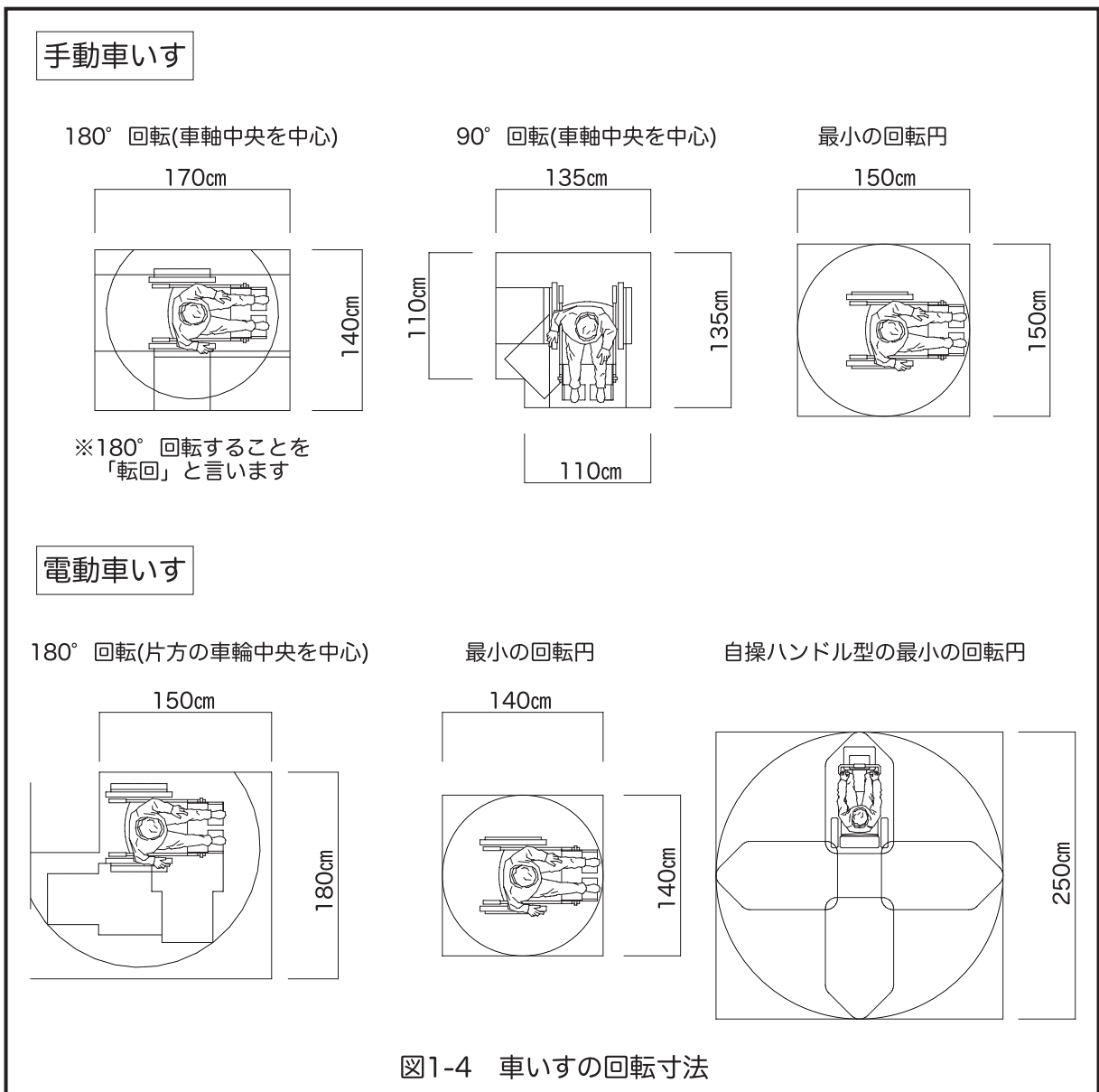
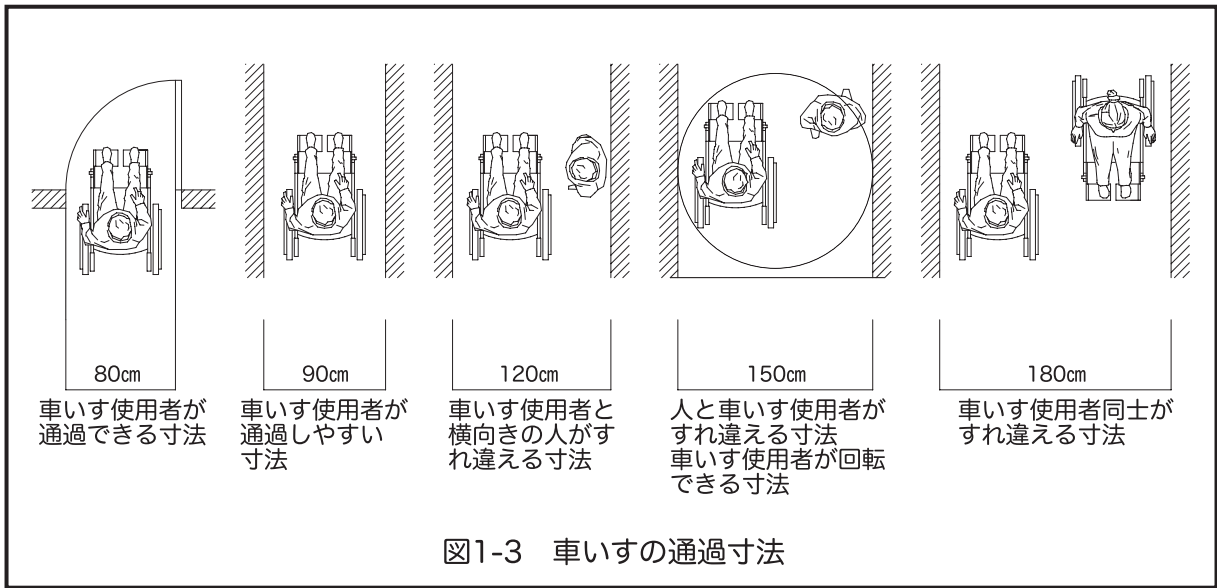
1.2 電動車いすの寸法

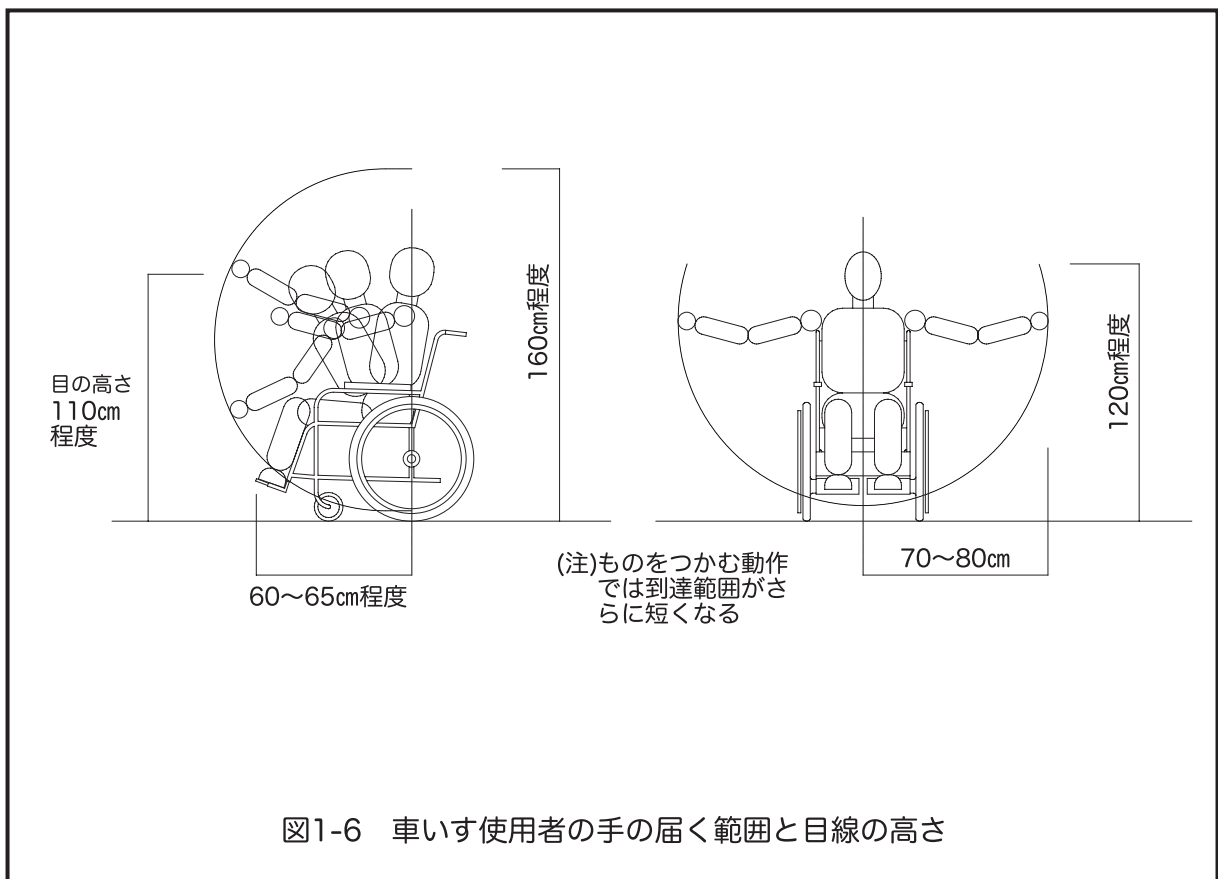
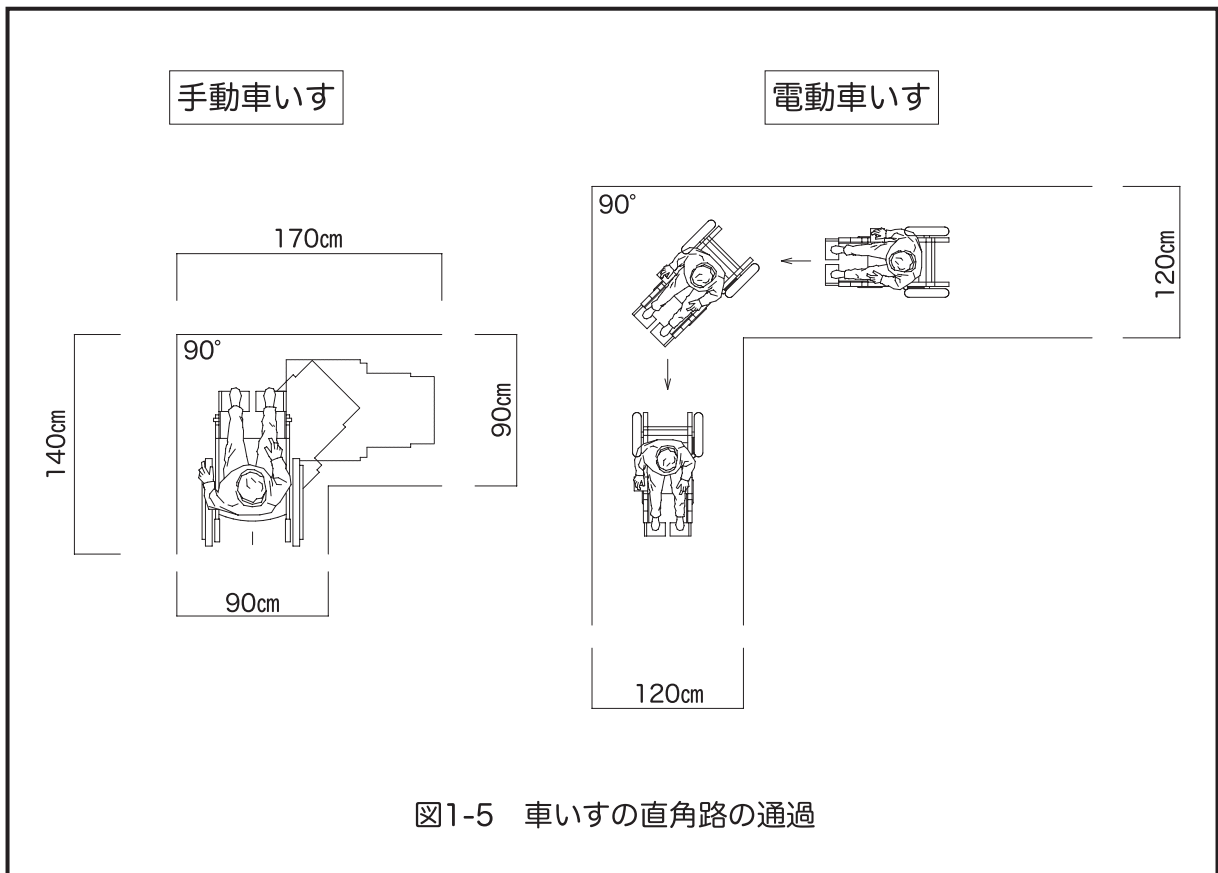
電動車いすの寸法はJIS規格(JIST9203)により定められている。

性能は、登坂力 10° (17.6%)以上、形式は自操用と介助用に分けられ、自操用は標準型、ハンドル型、座位変換型、簡易型、特殊型がある。段差の乗り越えは、屋外用で4.0cm以上となっている。一充電連続走行時間は、平坦路4~5時間程度(軽量型)のものが多い。なお、平均的な重量はバッテリーなどにより60~100kg程度である。自操用ハンドル型は、時速1.5~6.0km/hで走行し、段差の乗り越えは、4.0~8.0cm程度となっている。なお、道路交通法では、歩行者として扱われている。

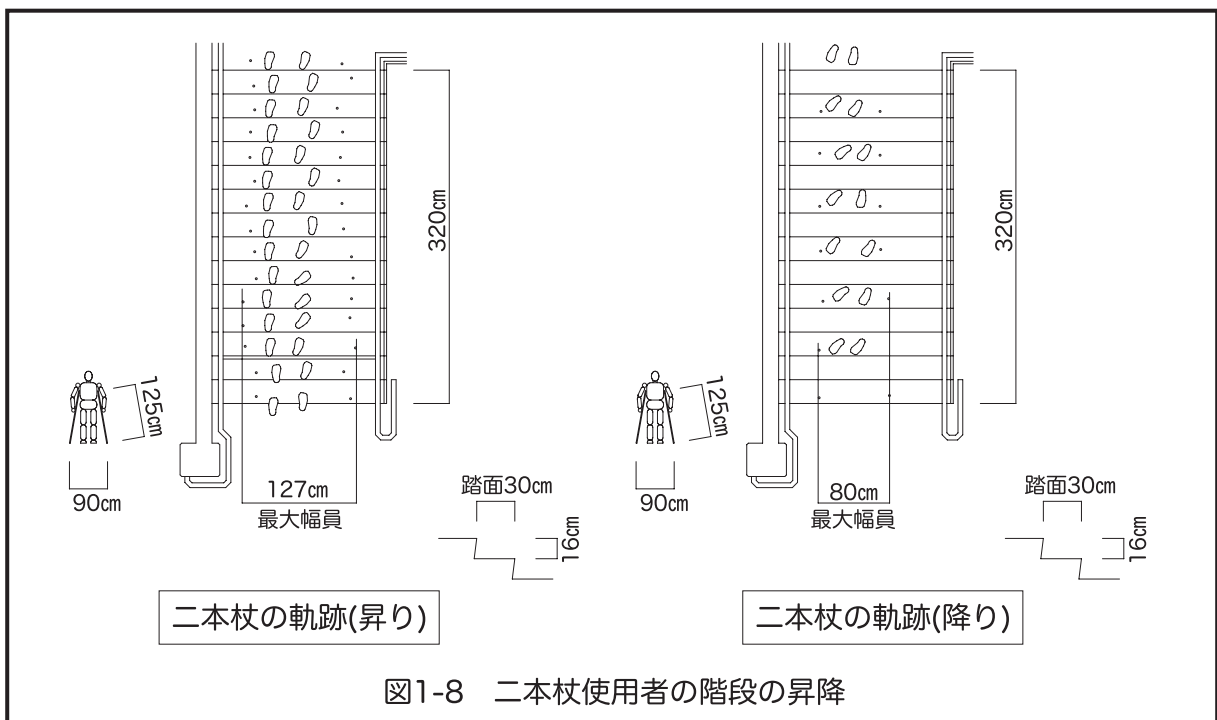
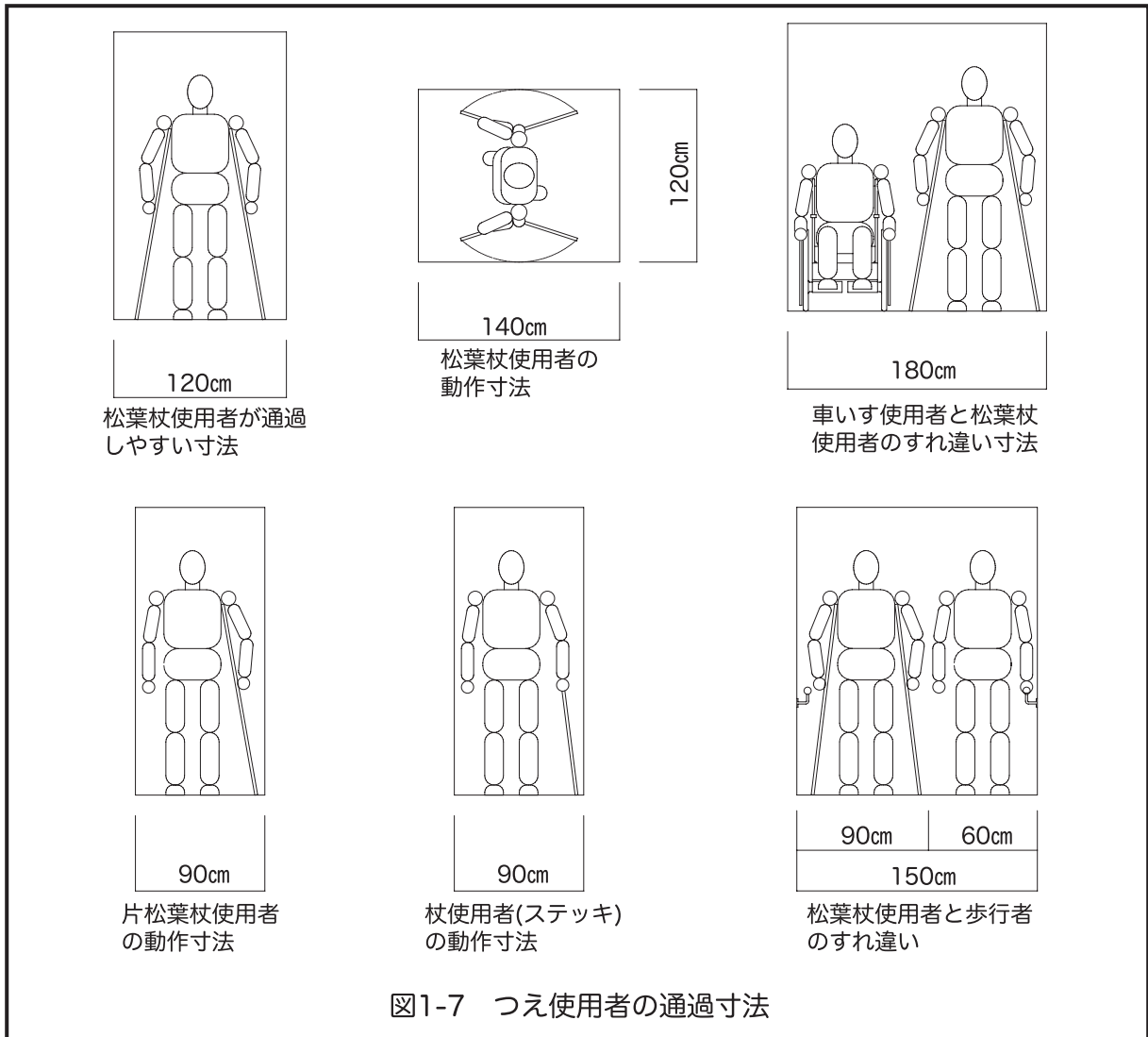


1.3 車いす使用者の動作方法

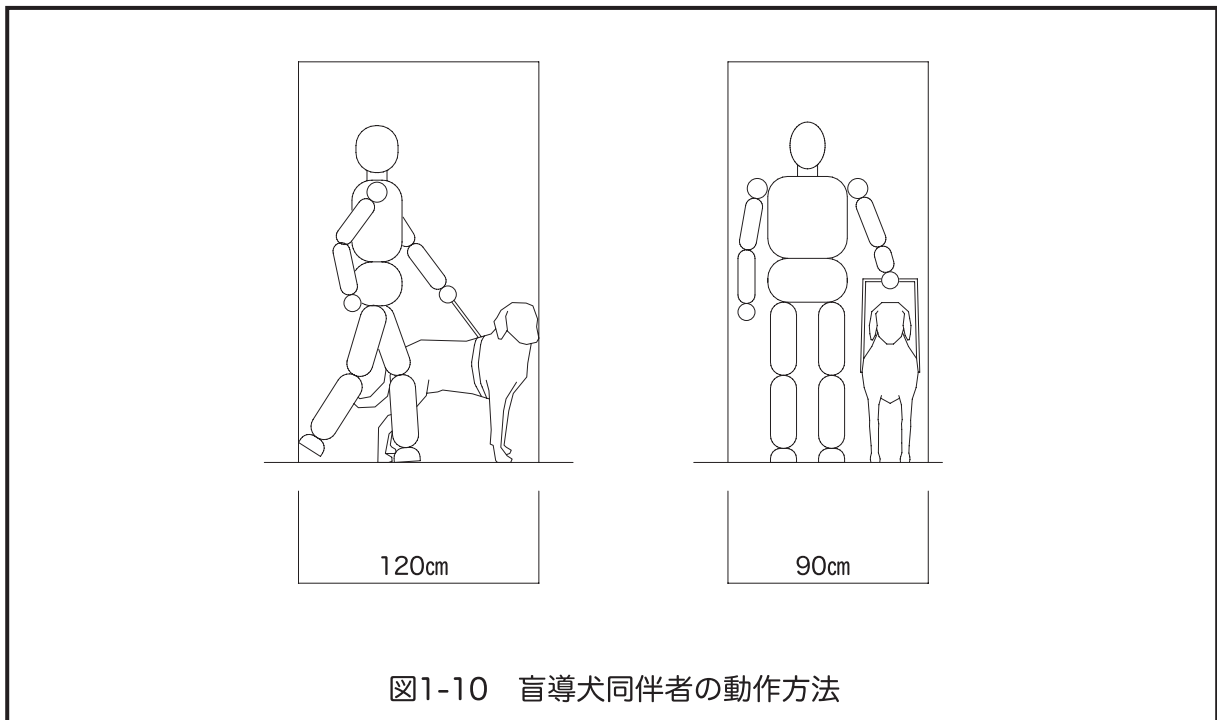
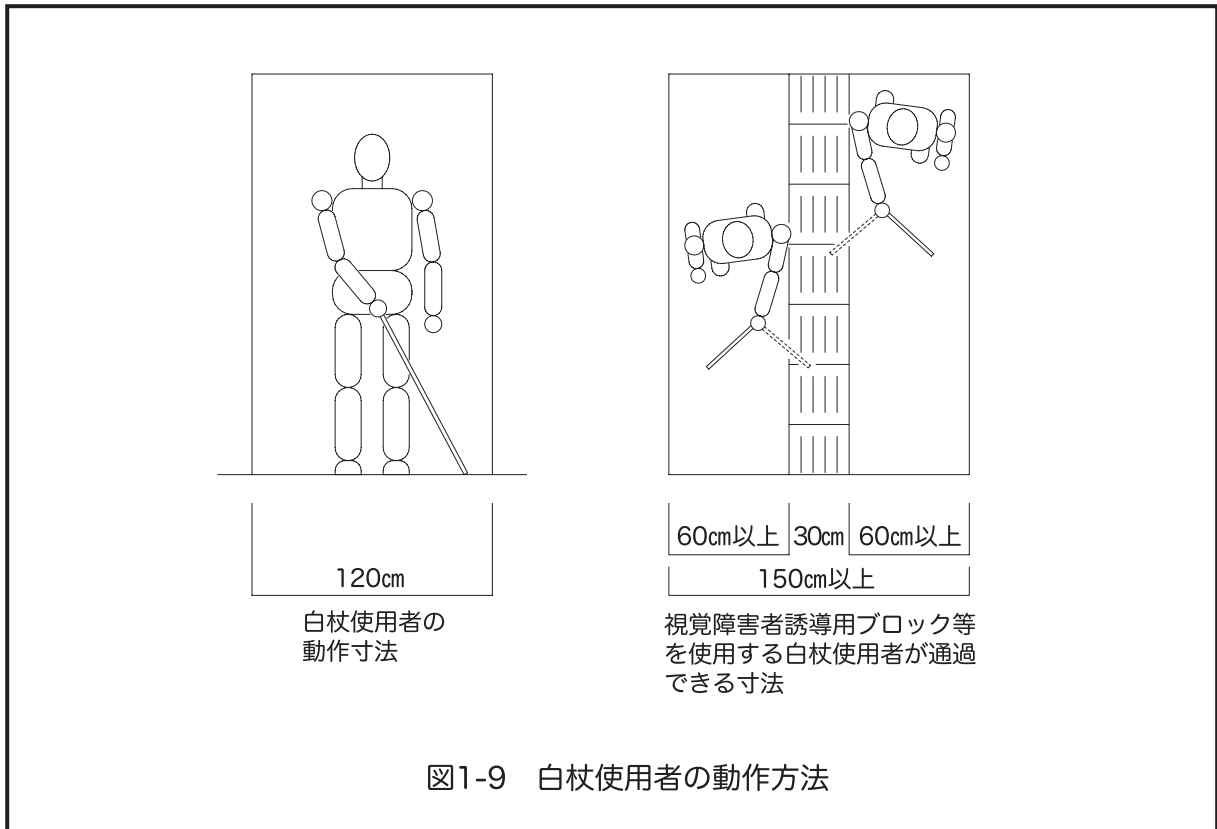




1.4 つえ使用者の動作方法



1.5 視覚障害者の動作方法



3-4 高知県内施設の参考設備事例 (平成22年3月現在)

高知駅

所在地：高知市栄田町
 主要施設：駅施設、土産物店、飲食店等

1. 便所



音サインのスピーカー

表示

【配慮点等】

- ・女性を●、男性を▲で表示
- ・便所の出入口頭上に、音サインの設置(視覚障害者に、音でトイレの位置を知らせる)



←

多機能便房

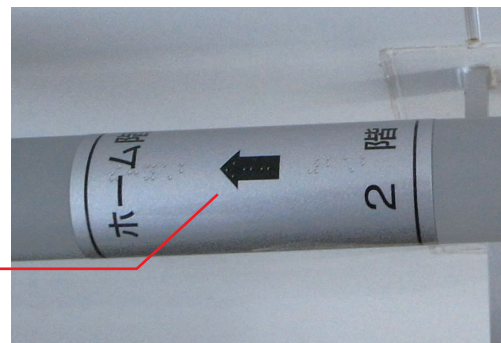
【配慮点等】

- ・腰掛け便座両側への手すりの設置(1以上は可動式(跳ね上げ式))
- ・背もたれの設置
- ・簡易式ベッドの設置
- ・オストメイト対応洗浄器の設置
- ・便器洗浄ボタンの点字表示
- ・出入口の戸に引き戸を使用
- ・出入口に国際シンボルマーク及びオストメイトマークの表示

一般便所【配慮点等】：ベビーシート・ベビーチェアの設置、手すり付き洗面器の設置、手すり付き小便器の設置

その他【配慮点等】：授乳室の設置

2. 階段



【配慮点等】

- ・階段への手すりの設置(点字表示)
- ・踊り場への注意喚起用床材の設置

3. エレベーター



- 【配慮点等】
- ・乗降口ビーの幅及び奥行き150cm以上
 - ・車いす使用者用制御装置の設置
 - ・かご内への手すり、鏡、キックプレートの設置

4. 改札口



- 【配慮点等】
- ・誘導用床材の設置
 - ・改札口の幅80cm以上

5. 乗降場

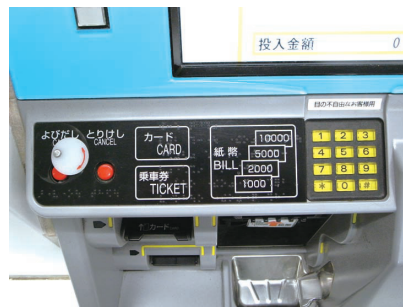


- 【配慮点等】
- ・縁側への注意喚起用床材の設置

6. 券売機



- 【配慮点等】
- ・点字運賃表の設置
 - ・券売機への点字表示



7. 駐車場



- 【配慮点等】
- ・優先駐車施設への屋根の設置
 - ・優先駐車施設の案内板の設置



8. 公衆電話台



- 【配慮点等】
- ・車いす使用者に配慮した高さ
 - ・下部空間の設置

9. 案内板



- 【配慮点等】
- ・音声案内付き案内板の設置
 - ・誘導用・注意喚起用床材の設置
 - ・蝕地図の設置

サニーアクシス いの店

所在地：吾川郡いの町
主要施設：スーパーマーケット等

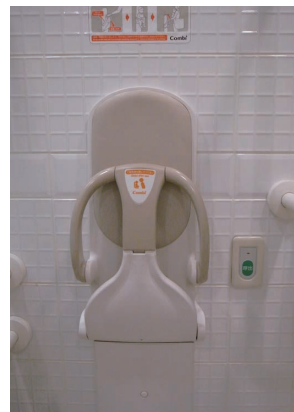
1. 多機能便房



【配慮点等】
・腰掛け便座両側への手すり設置
(1以上は可動式(跳ね上げ式))
・背もたれの設置



【配慮点等】
・オストメイトのための
洗浄設備の設置



【配慮点等】
・ベビーチェアの設置



【配慮点等】
・簡易式ベッドの設置



【配慮点等】
・出入口の戸(引き戸)



【配慮点等】
・操作スイッチの点字表示



【配慮点等】
・出入口の案内表示

2. 男子用小便器、その他



【配慮点等】
・男子用小便器への手すりの設置



【配慮点等】
・幼児用トイレの設置

高知龍馬空港

所在地：南国市久枝

主要施設：航空会社、売店、食堂、駐車場等

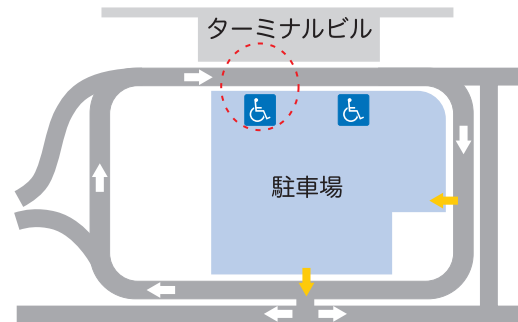
1. 優先駐車施設



【配慮点等】

- ・施設出入口から優先駐車施設への距離が、できるだけ短くなる位置への設置
- ・屋根の設置

2. ターミナルビルへの通路、バス・タクシー乗降場



優先駐車施設



【配慮点等】

- ・優先駐車施設とターミナルビルを結ぶ通路への屋根の設置

道の駅さめうら

所在地：土佐郡土佐町田井

主要施設：案内所、休憩所、販売所、併施設設(別棟)：食堂、シャワー室

1. 多機能便房



【配慮点等】
・多機能便房が、2つ設置されている



【配慮点等】
・腰掛け便座両側への手すり設置
(1以上は可動式)



【配慮点等】
・ベビーシートの設置
・幼児用便器の設置



【配慮点等】
・出入口の戸(引き戸)

2. 男子用小便器



【配慮点等】
・便所の出入口に近い場所に
手すり付き小便器の設置